

# 令和6年度 青森県立尾上総合高等学校 学校経営方針

## 1 校訓

Independence … 自立する心をもって歩むこと

Challenge … 探究する心をもって歩むこと

Harmony … 調和する心をもって歩むこと

## 2 教育目標

生徒一人一人の夢や希望の実現に向け、「自立する心」、「探究する心」、「調和する心」を育む教育を展開し、家庭や地域社会と連携・協働しながら、郷土に対する愛着と誇りを持ち、社会の一員としての自覚と「社会を生きぬく力・切り拓く力」を身に付けた人間の育成を図る。

## 3 目指す学校像

総合学科の特長を生かし、多様な学びや個に応じたきめ細やかな教育活動を通して、生徒一人一人の個性を伸長するとともに、自己の在り方・生き方を考察させるキャリア教育により、社会の一員としての自覚と協調性を養い、夢や希望を持ち、社会的・職業的に自立した人財を育成します。

## 4 令和6年度学校経営方針

### (1) 確かな学力の育成

ア 個々の生徒の状況に応じた学習指導を行い、基礎学力の向上に努める。

イ 生徒が落ち着いて学習に取り組めるよう、ユニバーサルデザイン化された分かりやすい授業づくりに努める。

ウ 授業で「分かる、できる成功体験」が実感できるように配慮し、生徒の自己肯定感と自己有用感を育成する。

エ 多様な生徒に対し、生徒個々の発達段階に応じた言語活動の工夫・改善を図る。

### (2) 豊かな人間性の育成

ア 相手や周囲を思いやり、琴線に触れた物事に素直に感動・共感する心を育むとともに、事故や問題行動の未然防止に努める。

イ 「おはよう」という挨拶、「ありがとう」という感謝、自らに非がある場合には「ごめんなさい」という謝罪の言葉をいつでも、どこでも、誰に対しても素直に言える態度を育成する。

ウ 時間の厳守、適切な服装容儀、TPOをわきまえた言動ができるよう、生徒の基本的な生活習慣と規範意識を徹底して育成する。

エ 人としての在り方・生き方教育を特定の教科及びホームルーム活動に限定せず、全教員が必要な時期、必要な場面で適宜に行う。

### (3) キャリア教育の充実

ア キャリア教育を通して、生徒の「学ぶ 働く 生きる」をつなぐ取り組みを推進し、生

徒の自立と就労を支援し、出口指導を徹底する。

イ アルバイト就業を奨励するとともに、授業の一環としてさまざまな体験活動に取り組み、就業意識の向上を図る。

ウ 個々の生徒の状況を考慮し、必要に応じて就労支援サービスを活用させるとともに、その校内体制を整備する。

エ 生徒個々の進路指導を充実させるため、教員相互の情報の共有化を図る。

#### (4) 保護者・地域に信頼される学校づくり

ア 各教職員が、今一度、教育公務員・公務員としてのサービスを認識し、保護者・地域・関係機関との関係を築くように努める。

イ 社会人としてのマナーを守ることはもちろん、保護者に対しては傾聴・受容・共感のマインド、地域・関係機関に対しては誠実な対応、職員間では報告・連絡・相談・調整のマインドを尊重する。

ウ 地域の福祉・保健・医療・労働等の関係機関との連携に努める。

エ 学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくため、学校運営協議会を設置する。

#### (5) 教職員の資質向上

ア 教職員が生徒との心の結びつきを深め、生徒の自尊感情の育成を図りながら内面の成長を支援する。

イ 多様な背景をもつ生徒に対応するため、教員の専門性向上に努める。

ウ インクルーシブ教育システムの理念の理解を深め、通級による指導を全校体制で実施する。

### 5 令和6年度学校評価の重点目標

(1) 授業で「分かる、できる」を実感させるため、ユニバーサルデザインの視点に立った授業やICTを活用した授業を行う。

(2) 「高等学校における特別支援教育」を熟議テーマとして、学校運営協議会を実施する。

### 6 重点目標達成のための具体的方策

(1) 授業で「分かる、できる」を実感させるため、ユニバーサルデザインの視点に立った授業やICTを活用した授業を行う。

ア 情報の視覚化・明確化のため、授業では「ねらい」、「内容」、「教科書」について明示する。

イ 各科目において、全授業時数の30%以上でICTを活用する。

ウ 授業者のうち、イを50%以上達成する。

(2) 「高等学校における特別支援教育」を熟議テーマとして、学校運営協議会を実施する。

ア 年3回以上実施する。

イ 委員に、本校運営への参画を意識していただく。

ウ 来年度の、地域学校協働活動に関する具体的な取組みを決める。